

社会資本総合整備計画

事前評価調書

計画の概要	計画の名称	立山町の快適な道路環境と安全で安心な暮らしを支えるまちづくり（防災・安全）		
	交付対象	立山町		
	計画期間	平成24～28年度（5年間）		
	計画の目標	一年を通じて安全な交通を確保するとともに、快適な道路環境を整備することで、安全で安心なくらしを支えるまちを形成する。		
	定量的指標（目標値）	・交通事故発生件数を、平成24年度から平成28年度までに約3%減少する。		
	対象事業	道路事業		
評価	項 目	評 価 細 目	評価	説 明 欄
	目標の妥当性	1 関連する上位計画等との整合性が図られているか	○	従前の特定計画の目標が継承されている。 立山町総合計画のの施策に整合している。
		2 地域の課題に適切に対応する目標となっているか	○	安全・安心な暮らしの確保のための整備の目標と一致している。
	計画の効果・効率性	1 整備計画の目標と定量的指標の整合性が確保されているか	○	整備計画の目標に合わせた定量的指標となっている。
		2 定量的指標が分かりやすいものとなっているか	○	統計データを基にした指標であり、分かりやすさに配慮した指標となっている。
		3 目標と事業内容の整合性が確保されているか	○	目標達成に必要な事業を要素事業として位置付けており、整合性を確保している。
		4 中間評価・事後評価時に検証可能な適切な指標となっているか	○	統計データを基にした指標であり、中間・事後評価を実施できる。
		5 十分な事業効果が得られる計画となっているか	○	目標達成に必要な事業を要素事業として位置付けており、事業効果が得られる計画となっている。
	計画の実現可能性	1 計画の熟度が高く、円滑な事業執行の環境が整っているか	○	関係機関等との協議体制が整っており、円滑に事業を実施できる環境が整っている。
		2 地元の機運が醸成されているか	○	地元関係者からの要望が強い事業も多く含まれており、地元との合意又は理解を得られている。
	評価結果	評価Ⅰ 事業を実施 評価Ⅱ 計画の見直し	【評価基準】 「評価Ⅰ」は、全項目に○印が付いているもの 「評価Ⅱ」は、1項目でも×が付いているもの	

計画の名称	20 立山町の快適な道路環境と安全で安心な暮らしを支えるまちづくり（防災・安全）			重点計画の該当	
計画の期間	平成24年度～平成28年度（5年間）	交付対象	立山町		
計画の目標					

計画の成果目標（定量的指標）

- ### 定量的指標の定義及び算定式

当初現況値

中間目標值	
-------	--

最終目標值

備考

0.00%

1.50%

3.00%

今休重堂費

合計
(A+B+C+D)

1 2 百 五 四

A

0.7 百万四

P

1

6 百五十四

D

0 百五四

$$C / (A + B + C + D)$$

0.19%

A1 道路事業	
---------	--

事業名	事業内容	事業実施期間（年度）	全体事業費	個別施設計画	備考
事業名	事業内容	事業実施期間（年度）	全体事業費	個別施設計画	備考

小計（道路事業）

807

C1	道路効果促進事業
----	----------

1

備考

品口	事業	地域	交付	直接	事業名	要素となる事業名	事業内容	総額(千円)	事業実施期間(年度)	全体事業費	備考
----	----	----	----	----	-----	----------	------	--------	------------	-------	----

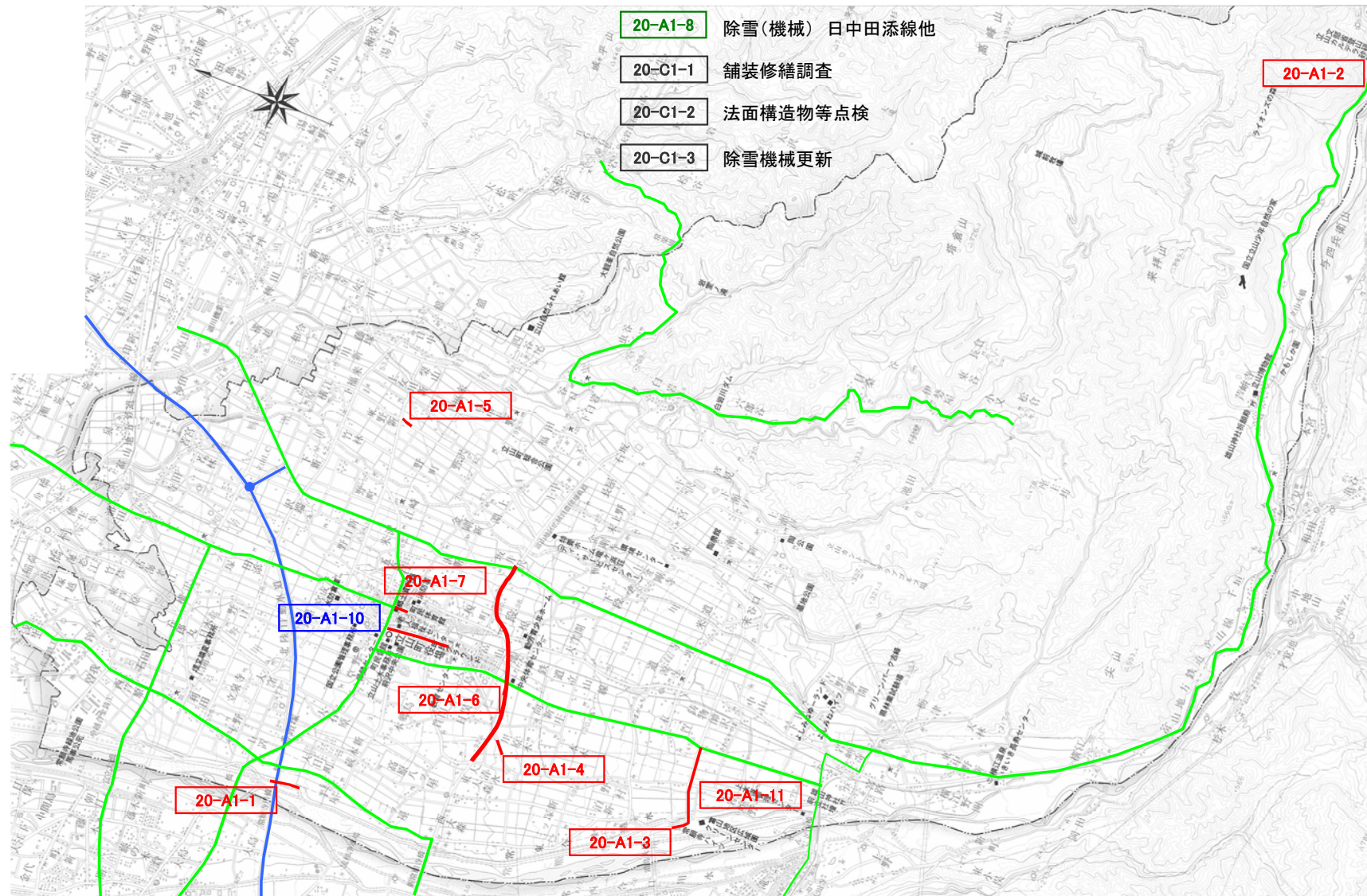
全体事業
(百万円)

1

備考

(参考図面)

計画の名称	20 立山町の快適な道路環境と安全で安心な暮らしを支えるまちづくり（防災・安全）	交付団体	立山町
計画の期間	平成24年度～平成28年度（5年間）		



- | | | |
|--|---|--|
| — 20-A1 舗装修繕 | — 20-A1 除雪(機械) | — 県道 |
| — 20-A1 通学路整備 | 20-C1 効果促進事業 | — 北陸自動車道 |

社会資本総合整備計画

事後評価書

平成27年3月

計画の名称	20立山町の快適な道路環境と安全で安心な暮らしを支えるまちづくり（防災・安全）										
計画の期間	平成24年度～平成28年度（5年間）					交付対象	立山町				
計画の目標											
一年を通じて安全な交通を確保するとともに、快適な道路環境を整備することで、安全で安心な暮らしを支えるまちを形成する。											
計画の成果目標（定量的指標）											
・交通事故発生件数を、平成24年度から平成28年度までに約3%減少する。											
定量的指標の定義及び算定式								定量的指標の現況値及び目標値			備考
各年の立山町の交通事故発生件数から減少率を算出する。 （交通事故発生件数減少率）＝（H24交通事故発生件数－評価時点の交通事故発生件数）／（H24交通事故発生件数）								当初現況値 （H24当初）	中間目標値 （H26末）	最終目標値 （H28末）	
								0.00%	1.50%	3.00%	
全体事業費	合計 （A＋B＋C）	813 百万円	A	807 百万円	B	0 百万円	C	6 百万円	効果促進事業費の割合 C／（A＋B＋C）		0.7%
事後評価（中間評価）											
○事後評価（中間評価）の実施体制、実施時期											
事後評価（中間評価）の実施体制						事後評価（中間評価）の実施時期					
立山町建設課						平成27年3月					
						公表の方法					
						立山町ホームページ					
2．事業効果の発現状況、目標値の達成状況											
Ⅰ 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況			幹線町道である1・2級町道を軸とした道路改良事業に取組むことで、円滑な通行と安全性、利便性の向上、広域連携強化等が図られ、計画の目標である「住みよさが実感できるまち」の形成に寄与することができた。								
Ⅱ 定量的指標の達成状況		指標①（交通事故発生件数の減少率）	最終目標値	10%		目標値と実績値に差が出た要因	道路改良によって安全性が向上した。 交通管理者による啓蒙活動によって、ドライバーの意識が向上した。				
			最終実績値	62%							
Ⅱ 定量的指標の達成状況		指標②（観光スポット・レジャー施設等の年間入り込み客数の増加率）	最終目標値	5%		目標値と実績値に差が出た要因	道路改良によって、観光資源等へのアクセスが向上した。				
			最終実績値	10%							
Ⅲ 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 （必要に応じて記述）											
3．特記事項（今後の方針等）											